

# フィボ・ストラクチャーを使ったドル円の分析

(2025年9月5日 午前10時時点)

## 1. 全体像の確認

まず、下図1はドル円(FXCMデータ)の日足チャートです。

- 2024年7月3日:高値 161.951円
- 2024年9月16日:安値 139.576円
- 2025年1月10日:高値 158.874円
- 2025年4月22日:安値 139.883円

この推移から分かるように、昨年夏に付けた161円台のピークから大きく下落した後、再び戻りを試す展開となっています。

図表1:ドル円の日足チャート(主要高値・安値)



## 2. ジグザグ・トレンドラインによる構造把握

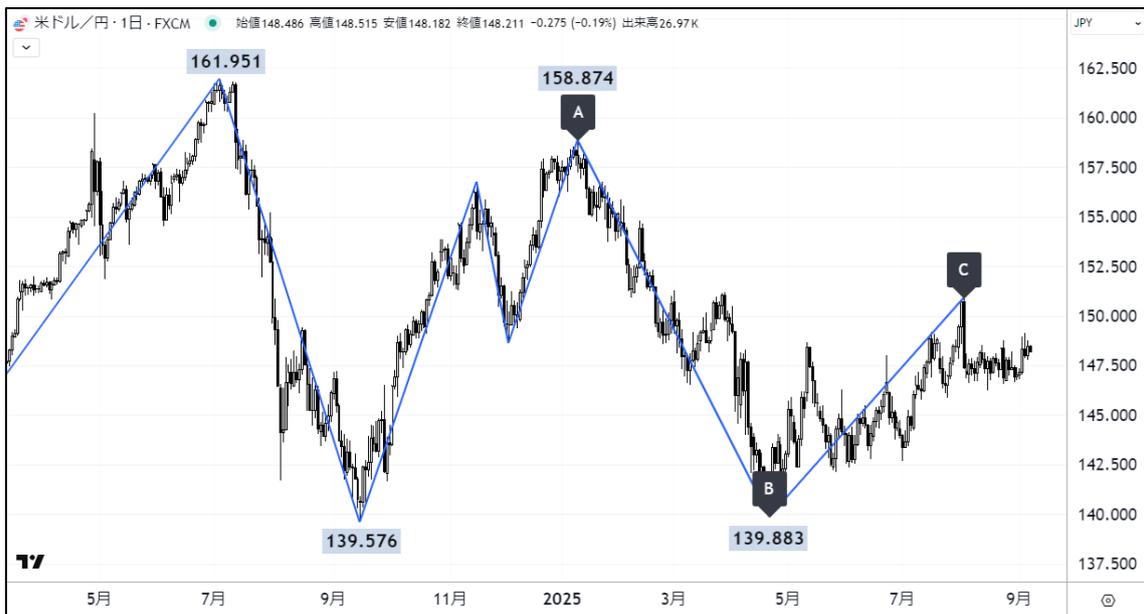
次に、フィボ・ストラクチャーのジグザグ機能を用いてトレンドを可視化します。フィボ・ストラクチャーは最大3本のジグザグを同時表示できますが、ここでは中期(短期は次回に解説予定)のレンジで主要トレンドを抽出しました。

現在のトレンド構造は以下の通りです。

- A点:2025年1月高値 158.874 円
- B点:2025年4月安値 139.883 円
- C点:直近戻り高値(暫定値) 150.917 円

このパターンは「下降トレンドの戻り局面」に該当します。つまり、**基本シナリオは戻り売りを意識する局面**と考えられます。

図表 2:ジグザグ・トレンドラインによる A-B-C 構造



### 3. フィボナッチ比率による戻り目途

さらに、A-B の下落幅に対してフィボナッチ・リトレースメントを表示したのが下図 3 です。

- 38.2%水準: 147.138 円
- 61.8%水準: 151.619 円

現在レートは 38.2%水準を上抜け、38.2%~61.8%の戻りゾーン(緑色の領域)で推移しています。テクニカル的には、このゾーンは戻り売りを仕掛けやすい領域とされます。特に 61.8%(151.619 円)が戻りの上限候補として意識されやすいでしょう。

図表 3:A-B の下落に対するフィボナッチ・リトレースメント



### 4. トレード戦略の考え方

- 短期的視点  
38.2%を超えたことで、151 円台の 61.8%を目指す戻り買い(ロング)の戦略も成立します。

- **中期的視点**

一方で、全体構造は下降トレンドの戻り局面であるため、フィボナッチ上限付近(151 円台)では戻り売り(ショート)を検討する局面となります。

このように、フィボ・ストラクチャーを利用することで、相場の「大局」と「目先」の両方を整理し、自分なりのシナリオを描くことが可能となります。

## まとめ

ドル円は現在、A-B の下落に対する戻りの最中であり、38.2%を突破したことで 61.8% (151.619 円)を試す可能性があります。短期はロング余地を探りつつ、中期では戻り売り戦略を視野に入れる局面です。

**フィボ・ストラクチャーを活用する最大のメリットは、相場を「自分なりの構造」として整理できる点にあります。**

単なる価格の上下ではなく、ジグザグでトレンドを可視化し、フィボナッチ比率で戻りや押しの水準を明確にすることで、**自分自身のマーケットの見方(シナリオ構築)が可能**になります。これは、他人の相場観に依存せず、自律的な売買判断を下すうえで非常に有効なアプローチと言えるでしょう。

以上